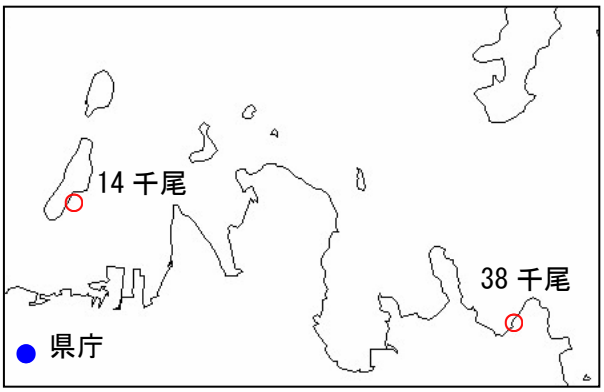
# 2009 年春季のサワラの漁況予報

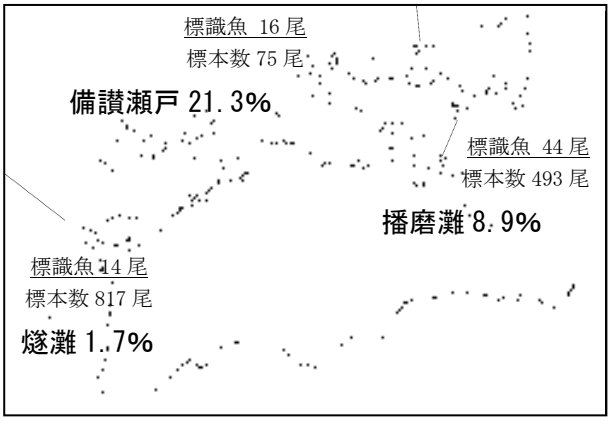
## 大型種苗の放流状況



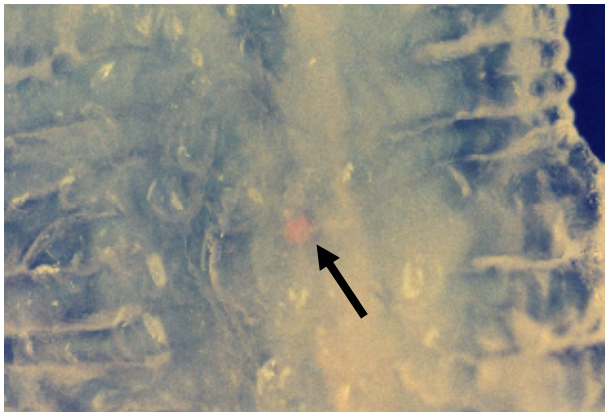

放流場所

2008 年は、中間育成した全長約 100mm の大型種苗を小田中間育成場から 38 千尾、女木島漁協から 14 千尾を放流しました。

瀬戸内沿岸府県からは、本県を含めて大阪府・兵庫県・岡山県で瀬戸内海東部海域に 105 千尾、広島県・愛媛県・大分県で瀬戸内海西部に 87 千尾の大型種苗を放流しました。

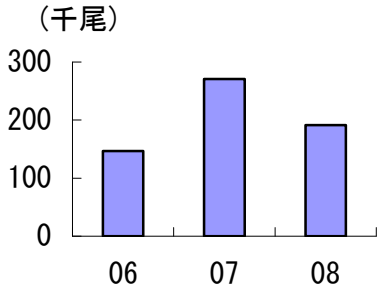



灘別の混入率



小田放流魚の耳石標識の写真

## 標本調査の放流魚の混入率




瀬戸内海の放流尾数

放流種苗には、耳石に標識を付けて放流しています。

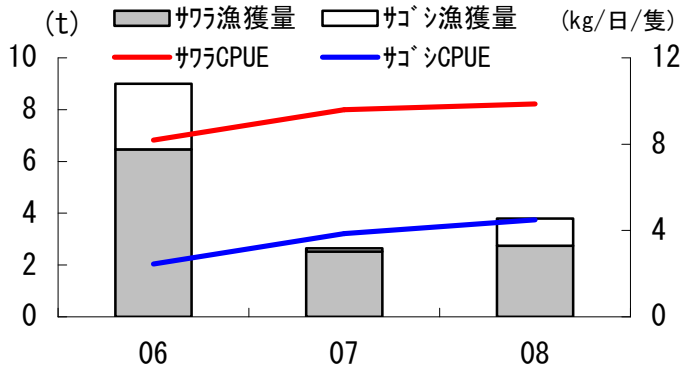
水産試験場では、2008 年に 1,385 尾の標本を調べました。その結果、74 尾の魚に標識を確認し、放流したサワラの混入率は播磨灘 8.9%、備讃瀬戸 21.3%、燧灘 1.7%、全体では 5.3%となりました。

標識魚の年齢別の混入率は、1 才魚（07 年放流）の 33.8%、2 才魚（06 年放流）の 23.5%にくらべて、0 才魚（08 年放流）は 2.2%とかなり低い結果となりました。

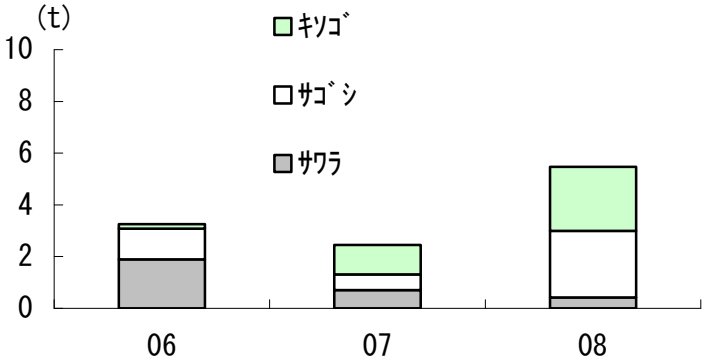
2008 年標本調査結果

| | 0才 | 1才 | 2才 | 3才 | 4才 | 5才 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 標本数（尾） | 1,152 | 68 | 98 | 42 | 23 | 2 | 1,385 |
| 標識魚数（尾） | 25 | 23 | 23 | 2 | 1 | － | 74 |
| 混入率（%） | 2.2 | 33.8 | 23.5 | 4.8 | 4.3 | － | 5.3 |

## 秋漁の漁獲状況




燧灘さわら流しさし網漁獲量




播磨灘定置網漁獲量

燧灘海域で 10 月～11 月操業していた伊吹漁協のさわら流しさし網の漁獲量は、2007 年よりは増加しましたが、2006 年に対して 42%ほどの漁獲量に止まりました。銘柄別では、サワラは 2,748kg で対前年比 109%、サゴシでは 1,041kg で対前年比 891%でした。

2008 年のサゴシの CPUE（単位努力当り漁獲量）が増加しているので、2007 年より天然発生は多いと考えられます。

播磨灘海域で操業している大型定置網の 2 経営体の 8 月～12 月の漁獲量は、5.5t で対前年比 223%でした。なかでも、キソゴ（800g 以下の 0 才魚）が対前年比 217%、サゴシ（800～1,500g の 0 才魚）が対前年比 429%の漁獲量であったことから、天然発生とサゴシの資源状態が良好であると考えられます。

## さわら流しさし網試験操業調査結果

試験操業でのサゴシ（サワラ 0 才魚）の漁獲状況

| 年 | 2002年 | | 2006年 | | 2007年 | | 2008年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 試験日 | 漁獲尾数 | 試験日 | 漁獲尾数 | 試験日 | 漁獲尾数 | 試験日 | 漁獲尾数 |
| 操業日 | 10/15 | 95 | 10/10 | 85 | 10/5 | 47 | 10/8 | 26 |
| | 10/23 | 116 | 10/16 | 32 | 10/15 | 14 | 10/15 | 49 |
| | 10/30 | 78 | 10/25 | 8 | 10/22 | 11 | 10/28 | 32 |
| 計 | 289尾 | | 125尾 | | 72尾 | | 107尾 | |
| 放流魚 | 9尾 | | 43尾 | | 23尾 | | 1尾 | |
| 混入率 | 3% | | 34% | | 32% | | 1% | |
| CPUE | 48.2尾/隻<br>3.3尾/反 | | 20.8尾/隻<br>1.4尾/反 | | 12.0尾/隻<br>0.8尾/反 | | 17.8尾/隻<br>1.2尾/反 | |

播磨灘南西部海域で 10 月にさわら流しさし網の試験操業（3 回延べ 6 隻）を実施しところ、0 才のサゴシを 107 尾漁獲しました。このうちの 1 尾が放流魚で、混入率は 2008 年は、2006 年及び 2007 年より低く 1%となりました。

しかし、CPUE（単位努力当り漁獲量）は2007年よりは高いものの2006年より低い値となり、近年、最も天然発生が良かった2002年のCPUEの半分にも満たない値であったので、今年の放流魚の生残率が悪いことが危惧されます。

## 2009年春季の漁況予報

○3才魚（2006年生まれのサワラ）
2008年並みと予想されます。
理由：3才魚は、漁獲対象の主群ではないが、2007年と2008年の2才魚の資源量が同程度と想定されるため。

○2才魚（2007年生まれのサワラ）
2008年並みと予想されます。
理由：1才魚の資源量が2007年と2008年で同程度と想定されるため。

○1才魚（2008年生まれのサワラ）
2008年を上回ると予想されます。
理由：0才魚の資源量が2007年より2008年の方が多いと想定されるため。

2009年は、総量として2008年並の漁獲が可能であると予想されます。

しかしながら、2007年の瀬戸内海の資源量は、1987年に比べて、いまだ14%と想定されるので、漁業経営を考慮しながら、過剰な漁獲を避けるよう努力してください。